

住宅系YouTuber、ラクジュの本橋代表もevoltzを高く評価!!

株式会社ラクジュの本橋代表をご存じでしょうか？

一級建築士の資格も持つ、神奈川県で工務店を運営されている方です。実はこの本橋代表、住宅系YouTuberの中でもトップクラスのチャンネル登録者(約6万9千人)をお持ちです。

「住宅の資産価値が長く維持できる世の中にしたい！」という思いからYouTubeを始められました。

本橋代表は、以前は「(制振装置を入れるよりも)先にやるべきことがあるのでは？」という考えをお持ちでした。

しかし、そんな本橋代表が、佐藤実氏とのYouTubeの対談の中で「この制振装置(evoltz)ならばつける価値がある」と感じられたそうです(佐藤実氏はM's構造設計や構造塾を主宰されている方で、弊社顧問に就任いただいております)。



以下、YouTubeでの対談の内容を抜粋して紹介します。

佐藤:『まずは耐震があって、それから制振がある。耐震等級4・5を考えるよりも、耐震3を守り続けるために制振を使うことが良い。』

本橋:『木造で一番良さそうな制振メーカーは何処ですか?』

佐藤:『evoltzがよいですよ。今まで制振装置というものを勘違いして

いた。しかし、evoltz開発者より制振装置は初期の段階より効き始めないといけないなど説明を受けた時にびっくりした。

それから私なりに検証した結果、今ではいいものだと思っている。』

本橋:『それは弾性変形(25mm)の範囲で効く?効かせないとだめですよね。壁量を増やしたほうが制振装置より効くのでは?』

佐藤:『1~2回の地震なら耐えるかもしれないが、熊本地震のように何回もの地震が起きると見た目は健全だがダメージが出る。』

上記のように非常に興味深い対談内容でした。

本橋代表の結論としては以下の通りです。

「地震初期(小さな揺れの段階)から制振装置が機能することが重要! そのような性能を持つ制振装置があれば装着する価値がある!」

これはまさしく微小変形から効くevoltzのことですね。

本橋代表は、家づくりの参考になる動画を数多く配信されております。ご興味を持たれた方は是非チャンネル登録をお勧めします。

株式会社ラクジュ 代表取締役 本橋哲幸
一級建築士、不動産コンサルティングマスター
YouTubeチャンネル「ラクジュ建築と不動産」は、
現在登録者数6万9千人を超え、正しい住宅を考える
人気動画サイト(右QRコード)となっています。



お客様の声「平屋でもevoltzは必要ですか?」→「必要です!」

最近、「平屋でもevoltzは必要ですか?」という質問を多くいただきます。結論から申し上げます。平屋に制振装置evoltzは「必要」です!!

【evoltzが平屋に効く理由】

左の写真をご覧ください。上の記事で紹介した佐藤実氏からお借りした熊本地震の際に被害を受けた平屋の写真です。破損が進んでいる様子が分かります。

平屋の揺幅は壁量に左右されます。壁量が少ない場合、「軽い」メリットも相応に「揺れる」点には十分な注意が必要です。

写真下の「平屋の特徴」や「地震発生時の平屋の特徴」にあるように、地震発生時、「建物が揺れ」「衝撃が加わる」以上、平屋でも確実に建物の耐力は下がります。損傷が進む可能性があるということです。

evoltzは、倒壊防止よりはるか手前の損傷防止レベルから効く特殊な制振装置です。その特性で特許も取得しています。よって、建物を損傷させない(耐力を下げない)evoltzは平屋の地震対策として有効であると考えます。

「平屋だから地震に安心」という認識には注意が必要です。

なお、evoltzの改善効果は建物高さが低い分、複層階建物と比較して少ない傾向にあります。これは平屋自体そもそもの揺幅が少ないためです。一方加速度低減率については、複層階建物と同等の効果があります。

evoltzを装着することで建物が受ける衝撃は間違いなく減少します。

長寿命な家づくりのためにぜひ平屋にもevoltzの採用をお勧め致します。



(上)平屋の建物が桁行方向に大きく傾いて全壊した。



(右)上の建物の室内の様子。梁などが大きく損傷しているのが分かる。

平屋の特徴

- ・建物上屋重量が複層階建物より少ない。
- ・平屋は建築基準法により必要とされる壁量が少ない。

地震発生時の平屋の特徴

- ・建物に加わる衝撃は複層階建物と同じ。
- ・建物の上屋が軽い場合揺幅が少ない場合がある。

ビルシュタイン工場定期視察

9月下旬、弊社営業チームが、千葉県内のビルシュタインテクニカルセンター(以下BTC)への定期視察を行いました。

ビルシュタイン製品のメンテナンスや調整、修理などは日本では唯一このBTCだけが取り扱っています。様々な部署や工程を視察しましたが、「ビルシュタインのこだわり」や「緻密さ」に改めて驚かされました。スタッフの方との会話の中で特に印象的だったのが、

「ウチのダンパーは作りがシンプルなので、それだけに部材の精度が問われる。日本にはこの精度を持つ企業はなかなかない。」という言葉です。まさにこれが世界レベルの高性能高品質の製品を提供し続けるメーカーの誇りではないでしょうか。自動車のドライバーの用途や希望する性能に合わせ最適な調整を行うため、パーツも何千種類も取り揃えられています。

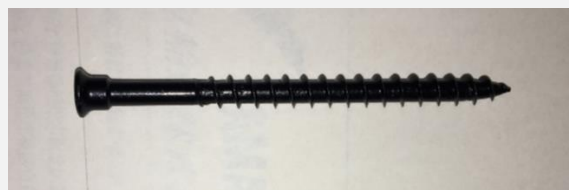
さらに、ビルシュタイン製品の専門商社である阿部商会とイベント

共催の話で盛り上がりました。もしかすると、振動体験イベントの時、ビルシュタイン仕様のラッピングカーが突然登場、振動駆体の横に展示されている！そんな日がやってくるかもしれません。今後の展開にご期待下さい！



evoltzビス改良で更に強く！

「阪神大震災レベルの地震の時に耐力壁の釘が切れるのに、ダンパーのビスは切れないのか？」という質問がよくあります。弊社では愛知県の豊田工業高等専門学校にて様々な試験を行っております。今回は「evoltzとビス」について説明致します。一番柔らかい「杉」におけるビスの「引張り試験」と「せん断試験」を、ビスの太さ、本数など、様々な条件にて行いました。evoltzが持つ力(地震の衝撃を減衰させる力)を仮に「10」とした場合、「20」(JISの算定値で)の力がかかっても耐えられる強度を保持するビスを選定しております。これは、そもそも制振装置が衝撃を吸収する装置であることと、evoltzが他社と違い、壁倍率を持たないことが重要な要因です。よって、evoltzに大きな力がかかった場合でも、付属するビスがせん断されることはありませんのでご安心ください。



9/15からビスが新しくなりましたこともお知らせさせていただきます。

【変更内容】

- ①旧:ステンレス製→新:スチール製(インパクトレンチの高トルク化に対応するため)
- ②50mmビスと2×4や受け材用にあった80mmビスの2種類が75mmの1種類に統一されます。

よろしくお願い致します。

猛暑・大雨災害時evoltzは!?

今年の夏は本当に暑かったですね。弊社のある静岡県浜松市は8/17に41.1℃という史上最高気温を記録しました。こういった猛暑の壁の中は当然温度が高いはずですが、制振ダンパーはきちんと作動するのでしょうか？実はevoltzは、-20~80℃の温度下でほぼ性能が変わりません。一方、ゴム系のダンパーは壁内の温度によって性能が大幅に変わると言われています。暑いほどゴムが柔らかくなり効きにくくなります。



それから、全国各地で大雨による洪水や浸水被害も多かったですね。evoltzは、水没してもきちんと作動するという強みもあるのです。evoltzは、地震はもちろん、上記のような災害にも強いのです！

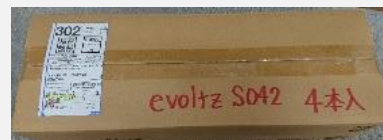


S042の梱包に関するお願い

S042の出荷について、通常の梱包箱は6本入りです。しかし、物件によっては、4本 or 2本といった本数で納品する場合があります。その時に「梱包の仕方が分かりにくい」というご指摘をいただくことがありますので、改めてご説明します。

【4本の場合】

6本入りの梱包箱に4本入っています。梱包箱の上面に「4本入り」と記載されています。上段に1本、下段に3本です。右のような説明写真も同梱していますので下段までご確認をお願い致します。



【2本の場合】

1本入りの梱包箱を2つ繋げた形で納品致します。梱包箱の上面に「2本」と記載されています。



納品時に上記をご確認ください。

猛暑が続いた今夏は塩タブレットを梱包に封入しました！



弊社では、この夏限定で熱中症対策として、evoltzの梱包箱の中に塩タブレットとお礼のお手紙を入れさせていただきます。私共はふだん現場に制振装置をお送りし、大工さんに取り付けて頂いています。それゆえ、大工さんと直接お会いする機会がほぼありません。この暑い中で制振ダンパーを取り付けて頂くだけでも大変な労力だと考え、取り付けて頂くお礼として封入しました。その結果、想像以上に喜びの声があったとの報告を頂いております。その他、体感イベントや弊社営業マンの訪問先で配ったりなどしていますが、こちらもご好評頂きました。来年の夏もご期待ください。